

だつ形ちに作るを寶髻と名づく、是髪のゆひ風に名あるのはじめなり、

〔服飾管見〕五首飾

女の首飾つぶさに去りがたし、略○中 玉海に、理髮具略○中 釵子花釵子一、二と見ゆ、略○中 釵子四有緒、略○中

いへる注に、花釵子一ツ、二有緒とは、花釵子左右よりさす二本にて一具也、二有緒とは釵子也、中

略 釵子もかづらとかみとをひとしくかたむる料也、略○中 花釵子はもとゞりをとめむ料也、略○中

江家次第、節會の内命婦なども、朝服にはあらねど、華釵とあれば、首飾のみは、や、残りてけり、後

の代となりては、るりぐし華釵などつくることなく、髻もなし、たゞかみをあげてさいし、さしく

しのみなりき、五節には、たれかみにも、さいしをさして緒をたるい也、是を平額といふにや、常

に陪膳などするには、かく去たりけり、

〔雅亮装束抄〕一五せち所のこと

ひめ君は五せち所にて、かみあげのさうぞかすこと也、略○中 おほかたは五せちのあいだは、ひ

め君以下さぶらふべきことなり、わらは、去もつかひのさいし、ひめ君のかづら、略○中 とりぐし

て、うちみだりのはこのふたにいでて、二かゝるにおくべし、略○中

ひめ君のさうぞく、略○中

とらの目、略○中 かんざし、さいし、四すぢあるを本所にまう、略○中

去もづかひのさうぞくの寸法、略○中

去もづかひのさうぞく、略○中 つぎにさいしをさすべし、むらごのみつくりのを、つけたり、ま

づむらごをとめて、なかをりにとりなして、ひとむすびして、さいしをつらぬくべし、たゞしか

たかたをすこしながくすべし、いたゞきよりひきこさんよういなり、さいしをひだりのてに

とりて、去もづかひにむかひてたちて、わけめの右のかたのかみを、すこしさいしにてすくひ